

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 栗駒地区(1/2)

長町―利府線断層帯の地震の場合

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(長町―利府断層帯の地震)において示された強さ(震度の揺れ)に基づいた場合に、地震の液状化の影響を総合的に程度(建物被害(全壊及び半壊程度)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震の発生の仕方によっては、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○長町―利府断層帯は、仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約40kmの活断層です。約3000年に一度程度の割合で繰り返し地震を起こし、最後の活動は約2000年前ではなかったかと推定されています。マグニチュード 7.1の地震を想定しています。

金成地区

家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

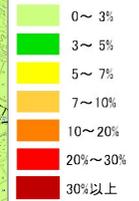
住宅の全壊を免れても、ガラスの飛散やサンス等の大型家具の転倒、子どもや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるなど、日常生活には想像できない事態によって、思わぬケガをし、避難が遅れて火災に巻き込まれたりすることがあります。断層帯中該地区においても負傷者の約3割はガラスの飛散や家具類の転倒・落下によるケガによるといわれています。

家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- 家電製品の設置場所を安全な場所に移動し、扉の閉鎖を常に確認する。
- 転倒や倒壊を多発する場所の近くに、家具や家電製品を置くべきでない。
- いすや椅子などの脚部が不安定な家具や家電製品をなるべく置かない。
- 入浴中や調理中など、地震発生時の危険な状況の上には避ける。
- 寝る時は、下に着るもの、上に着るものを着る。
- 寝る時の寝具や布団の固定は、マットレスの固定等の住宅のリフォームを行う。
- ガラス製品には飛散防止フィルムを貼る。

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色のまらされていない箇所があります。

凡例 木造建築物の 全半壊率



地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による被害(木造)被害をその被害の程度に応じてランク分けし、地図上に示したものです。具体的には「揺れやすさマップ」で示した震度の揺れやすさ(震度)と、地震の液状化の影響を総合的に程度(建物被害(全壊及び半壊程度)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震による死傷・ケガの要因は何？

阪神大震災での死者の約1割は地震前後の突如、建物による圧死といわれています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震性が重要です。

建物の耐震化が重要です。

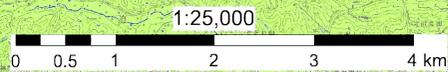
■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、備って大きな窓がたぐさあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を開けたとき、柱と建具の間に著しい縦長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- 窓の取手が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が優っている。
- シロアリ(成虫(4枚羽根のついたものあり))が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が変形している。
- モルタル塗壁に長い斜めひび割れが入っている。
- 浴しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、河院発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19終研第980号)

